



地方課題解決に向けた全国各地の取り組みが紹介された「プラチナ大賞」の最終審査会＝10月26日、都内

少子高齢化、人口減少、エネルギー問題など地方は多くの課題を抱えている。それを国任せではなく、地域の力で解決しようとする自治体は数多い。それらの取り組みを紹介する「プラチナ大賞」の最終審査会が先月末に東京都内で開かれ

記者ノート

た。全国各地が抱える多くの課題。それを解決しようとする地域住民の熱意を感じた。

今回のプラチナ大賞は、エネルギー関係の事例発表が目立った。浜松

プラチナ大賞と地方創生

フルに活用し、地方創生につなげる考え方だ。

ほかにも、荒廃した里山を活用しバイオマス発電に連携して取り組む地域と企業、森林やサトウキビなど地域資源をフル活用してエネルギーコスト削減を進める離島自治体など、エネルギーの「地

受賞した。県内では浜松市が審査委員特別賞、NPO法人グラウンドワーク三島の渡辺豊博専務理事がプラチナ特別表彰を受賞した。

「地方創生」と一口に言っても、地域の抱える課題はそれぞれ違っている。地域住民はそれを一

課題解決へ利点を活用

市は太陽光発電や天竜材を、地域内で消費するのはもとより、地域外へと販売していく取り組みを紹介した。年間日照時間が全国トップクラスで、国際基準の認証林面積が全国最大などの利点を

産地消」を図る事例が紹介された。

今年審査の結果、点在する医療空白地など地域課題の解決に向けた取り組みをビジネスモデル化しようとしている島根県雲南市の事例が大賞を

番熟知している。その課題を自らの手で解決していくこととする地域の熱意とパワー。この有無が、これからのまちづくりにかかせない要素になると感じた。

(東京編集部・福田雄一)

とうきょう便ウィークリー